

きらめくふるさとかながわ民俗芸能祭

国際文化観光・スポーツ常任委員会副委員長として出席



横浜のはまぎんホールにおいて開催された「きらめくふるさとかながわ民俗芸能祭」に国際文化観光・スポーツ常任委員会副委員長として出席させて頂きました。

神奈川県には、山村・農村・市街地にも様々な民俗芸能が大切に伝承されています。今回は、

海にまつわる豊かな文化遺産として、三浦市の「海南神社夏祭りの行道(お練り)獅子」はじめ三つの伝統芸能が紹介されました。行道獅子が市外に出たのは初めてのことということです。

私も海南神社行道面保存会の一員として参加することができました。

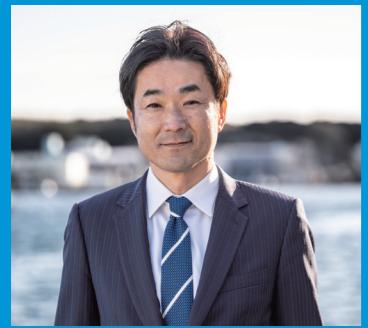
【国際文化観光・スポーツ常任委員会要望】 県の担当部局に対して、地域の伝統芸能は、地域に伝わる貴重な財産であり、その地域に活力をもたらすことにもつながるものであります。伝統芸能を担う各団体は、後世に継承していくために、様々な努力を重

ねていますが、多くは財政的な基盤が弱く、県としてもより効果的な支援を行っていく必要があると考えます。

各団体の意見を聞き、ニーズをしっかりと把握したうえで、より多くの方に支援が届くよう、補助制度の見直しの検討を進めること、また、ユネスコ無形文化遺産に登録されているチャッキラコとお峯入りの二つを活用、発信していくことで、他の地域から多くの人に鑑賞に来てもらい、県全体の伝統芸能の活性化につなげることを要望しました。



石川たくみ プロフィール



昭和48年(1973年)三浦市外海町生まれ、初声町在住。徳風幼稚園、三崎小・中学校、追浜高校卒業。早稲田大学教育学部へ進学・卒業後、凸版印刷株式会社、有限会社丸石製作所を経て、2011年(公社)三浦青年会議所第50代理事長に。2013年に三浦市議会議員(一期)、2015年には神奈川県議会議員に初当選。現在、国際文化観光・スポーツ常任委員会副委員長。

①県議会自民党政調会副会長として知事に提言書を提出②国際文化観光・スポーツ常任委員会副委員長として横浜マラソン式典に出席③三浦市出身タレントの川村エミコさん、三崎にご縁のある真打ち・錦笑亭満堂さんと④ジャパンモビリティショー2023に参加⑤自民党神奈川県議会議員団を代表し賛成討論⑥ラクロス女子日本代表の鈴木理沙主将と⑦三浦市出身のKrushライト級王者里見柚己選手と



神奈川県議会議員 石川たくみ活動報告

かけはし

Vol.25
発行所
石川たくみ事務所

三浦市初声町下宮田489-11 長嶋第2ビル2階



「脱炭素」の取組みを前へ!

ブルーカーボンの取組の促進について

【質問】 藻場の再生を着実に進めていくためには、海藻を食べてしまうウニを除去する活動や早熟カジメを移植する取組をはじめ、様々な方法により取り組むとともに、漁業者や市民団体、民間企業など、より多くの主体と連携して取り組んでいく必要がある。そこで、二酸化炭素の吸収源対策として、ブルーカーボンの取組の促進に向け、今後、どのように取り組んでいくのか、見解を伺う。

【知事答弁】これまで県は、漁業者や市民団体と連携して海藻を食べ尽くすウニの除去活動を進めるとともに、早熟カジメの大量生産技術の開発にも取り組み、吸収源対策の一つである藻場の再生を進めてきました。

しかし、相模湾では藻場の9割が消失し、未だに減少傾向にあります。今後これに歯止めをかけ吸収源となる海藻を増やしていくためには、幅広い主体と連携し、より多くの海域で取組を進めていく必要があります。

そこで、県はこの危機的な状況を県民の皆さんに広く伝えるとともに、藻場の再生に取り組んでいる漁業者や市民団体に加え、新たにダイビングショップ等の民間事業者にも直接働きかけ、より多くの主体の確保に取り組みます。併せて、マリーナ事業者と連携し、藻場を相模湾一帯に拡げ、ベルト状につなげる「ブルーカーボンベルト」の取組を進めていきます。

また、藻場を再生するだけでなく、小田原漁港の海岸に整備している人工リーフを利用し、新規の藻場の造成に取り組むとともに、地方港湾である湘南港においても、試験的に早熟カジメを移植して育成する取組を始めます。さらに、海水温が高くて育つワカメやアカモクなどの養殖を普及させ、漁業者による海藻養殖の規模を拡大していきます。

県は、こうした様々な取組により、多くの主体と連携し、二酸化炭素の吸収源対策であるブルーカーボンの取組を一層促進してまいります。

【要望】 二酸化炭素の吸収源対策としてブルーカーボンの取組に対する期待は非常に大きいことから、藻場の再生を着実に進めていただくとともに、藻場の造成、海洋養殖の普及など、漁港や港湾を活用した様々な方法でブルーカーボンの取組を促進するよう要望します。併せて、こうした取組を実施する際は、例えば、企業版ふるさと納税やネーミングライツの活用など、民間企業とも連携して取組を進めるよう要望します。



で検索！

すべては三浦のために

魅力ある水産業の実現に向けた取組について

漁業協同組合の支援を

【質問】 漁業者の減少や漁業協同組合の弱体化は、県民に安定した水産物の提供に支障をきたすとともに、地域における人口減少や高齢化、経済活動の衰退など、地域の活性化を目指す上でも課題となつておる、本県水産業は大変厳しい状況にある。近年、三崎漁港では、漁業が観光業やレジャー産業と連携して賑わいを創出する海業の取組が進められており、漁港を活用した地域振興策として、県内の事業展開に大いに期待している。このような取組により、漁業が魅力ある職業となり、漁業者と漁業協同組合の経営が安定すれば、将来にわたり県民に水産物を安定して提供し続けることが可能となるのではないかと考える。

そこで、漁業所得の向上を図り、本県水産業を魅力ある産業とするため、今後、どのように取り組んでいくのか、見解を伺う。

【答弁要旨】これまで県は、漁業所得の向上を図るために、栽培漁業による稚魚の放流や、漁獲量の管理などにより、水産資源の増大に取り組んできました。また、漁業者を支える漁業協同組合の経営強化を図るために、漁協合併を推進してきました。しかし、本県の漁業所得は伸び悩み、漁業者も減り続けていることから、水産業を儲かるビジネスにする取組を進める必要があります。

そこで県は、単価の高いサザエやアワビを増やすため、稚貝の放流や、棲み家となる藻場の再生に取り組むとともに、魚の付加価値を高める養殖技術の開発を進めています。

また、観光業など他の産業と連携し、漁業を中心とした新たな「海業」を推進するモデル地域を指定し、所得向上の成功事例を創出していきたいと考えています。さらに、こうした海業への参入を

希望する民間企業と漁業者とのマッチングの仕組みづくりに取り組み、県内全域への展開を目指していきます。加えて、令和6年1月に湘南地区の4漁協による市町をまたぐ広域合併が実現し、湘南漁協が設立されることから、合併後の漁協の運営が円滑に進むよう支援していきます。こうした取組により、漁業所得の向上を図ることで、水産業を、多くの人が働きたいと思える魅力ある産業にしてまいります。

【再質問】漁業協同組合の合併による経営強化は、漁業者の所得向上を支えることから重要だと考えます。

そこで、合併を進めていくためには、どのような支援をしていくのか見解を伺います。

【答弁要旨】漁協の合併を推進していくには、合併による漁協の経営強化が図られ、漁業者の所得が向上することが重要であります。そこで、漁協の収入源である販売事業を強化するため、合併に伴い増加する漁獲物をまとめて安定出荷できる施設の整備や、特產品を利用した6次産業化の取組などを支援していきます。併せて、こうした支援策を県内の漁協に丁寧に示し、合併に対して前向きな意識を持っていただくことで、漁協合併を推進してまいります。

【要望】県は、藻場の再生や、魚類養殖の導入、漁業協同組合の合併、さらには「海業」の取組など水産振興の施策を積極的に展開し、漁業所得の向上を図り、本県水産業を魅力ある産業にしていくよう要望します。また、漁業協同組合は職員が少ないところが多く日常業務に追われ、合併や新たな事業に取り組む余裕が無いことから、漁業協同組合の運営が円滑に進むように支援することを求めます。

地域公共交通の維持・確保に向けた取組について

バス・タクシーの支援を

【石川質問】私の地元三浦市では、バスの運行本数が減少し、深夜のタクシー運行が無くなりました。コロナ禍によって離れたタクシーの運転手が募集をかけても戻らず、車両はあっても運行できる台数が少ないので、利用者が利用したくても、なかなか予約ができない状況で「いざ」という時にタクシーがないのは不便だとの声が私に寄せられています。

バスやタクシーの運行の確保が難しくなる中、持続可能な地域公共交通を実現するためには、市町村が策定する地域公共交通計画に、新たな視点を取り入れることも重要であり、それに県の支援が必要と考える。

そこで、地域公共交通の維持・確保に向けて、どのように取り組んでいくのか、見解を伺う。

【知事答弁】バスやタクシーなどの地域公共交通は、誰もが自由に利用できる移動手段として、欠かせないものであり、高齢化が加速する中で、その維持・確保は、ますます重要になっていく。



【石川要望】知事から、運転手不足への対応として、県は、市町村の策定する地域公共交通計画に、DX技術などの新たな視点を取り入れられるよう、取り組んでいくとの答弁がありました。

DXは、長期的将来的に非常に重要な取組であり、こういった支援をしていただきたいと思っていますが、一方で、いまだにコロナの影響から抜け出せない事業者は本当に沢山あります。そんな中、宮崎県は、6月補正予算でタクシー運転手不足対策として、

二種免許取得費用を補助して、この公共交通を支援しています。今まさに厳しい事業者に対して、早急なる支援が求められています。いわゆる2024年問題もありまして、この人手不足の声は、切実であります。事業者の声をしっかりと受け止め、生活の足である地域公共交通を支援していくことを要望いたします。



神奈川版ライドシェア(案)の検討状況について

タクシーもライドシェアを選べる社会へ

【石川質問】三浦市域におけるライドシェアの需要についてどのように考えているのか？

【北見観光戦略担当課長答弁】需要について正確な把握までは出来ていない、と聞いている。そのため、今回三浦市域での実証実験を検討する中で、需要や運用面の課題を把握する予定としている。また実証実験を通じて、夜間の時間帯の飲食店などで、「移動手段が確保されるなら、もう少しこの場所に滞在しよう」といった潜在的な需要に繋がる可能性もあることから、そうしたニーズを把握していかないと、と考えている。

【石川要望】ライドシェアというの、タクシー需要とは違う需要が生まれる可能性もあります。地元の飲食店は、タクシーが夜間に無いことの厳しさから、署名を集めて嘆願書を提出しよ

うといった取組みもあります。そうした声や宿泊施設も含めて、観光の視点から、ニーズ調査を行うようお願い致します。

【石川質問】神奈川県は、外国人観光客も多く訪れていることから、外国人観光客の受入環境を整備するという観点で、ライドシェアについてどのように考えているのか？

【担当課長答弁】ライドシェア導入の議論が進むことで、観光客の交通手段や快適な移動手段の選択肢が増えることは、観光客の受入環境整備に資するものであり、観光客の満足度や周遊性が高まることにも繋がる。そして特に、多言語対応や乗車前の精算機能を持つ配車アプリが県内で使用できるようになることは、外国人観光客の利便性向上に繋がるものと考える。

三浦市域における神奈川版ライドシェア(案)概要

地域・時間帯など

- ◎出発地及び到着地は、ともに三浦市内
- ◎時間帯は、19時から25時
- ◎利用者は、制限なし（専用アプリの登録が必要）
- ◎ドライバーは、三浦市在住者及び在勤者
- ◎車両は、自家用車を使用
- ◎料金は、タクシーと同額程度

法制度の整理

神奈川版ライドシェア(案)の実現に向けて、法制度面の課題を整理し国交省などに要望を行う。

保険やアプリの検討

神奈川版ライドシェア(案)に対応した保険・アプリを検討する。

需要や運用面の検証

需要や運用面での課題を把握するため、現行法制度で実施可能な三浦市主体の実証実験を検討する。

今後の進め方・早期の実施に向けて

タクシー会社と連携した安全確保

- ◎実施主体はタクシー会社
- ◎運転前点呼等の運行管理や日常点検等の整備管理などを実施
- ◎神奈川版ライドシェア向けの保険（今後開発）に加入
- ◎ドライバーの面接・登録、教育を実施

デジタル技術の活用

- ◎アプリの活用（配車管理から料金確定、決済、ドライバーの評価、緊急通報装置等）
- ◎ドライブレコーダー、車内カメラを車両に装備
- ◎遠隔点呼による健康管理やアルコールチェックの実施